

季刊 湘南自然誌 Vol.4

〈巻頭特集〉「湘南の原風景～65年前の自然と暮らし～」

ズメ
(1月、寒川町宮山)

ナチュラルイラストレーター

もりうえ よしたか

森上 義孝 先生

×

堀田 佳之介 副園長



P1 はっけん隊について

P2-8 巻頭特集 森上先生に伺う
「湘南の原風景」

P9-P10 はっけん隊活動報告

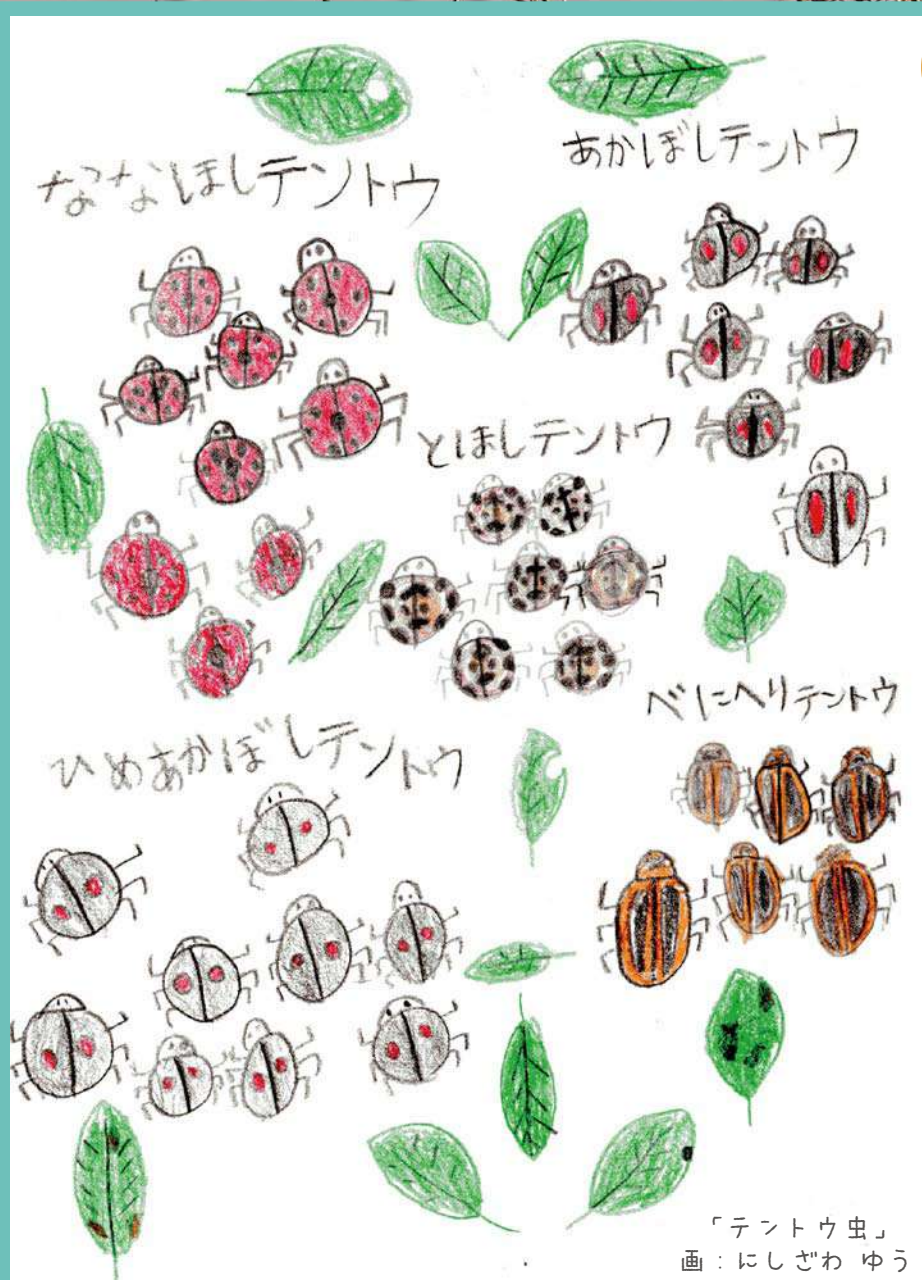
P10 『あいだ先生のチョウ教室』
第3回 チョウとガの違い

P11-13 2016.12 - 2017.2
生き物はっけん記録

P14 時節のコラム
「春にしか見られないむし」

P14 はっけん隊からの
お知らせ

P15 絵画投稿コーナー
おえかきひろば





【「平岡いきものはっけん隊」と「湘南自然誌」について】

「平岡いきものはっけん隊」(略称:はっけん隊)は、平岡幼稚園の在園児、卒園生及びその家族と、教職員と有識者による顧問等で構成されています。発足は平成28年3月。あつまりやイベントへの参加義務はなく、隊員それぞれができる範囲で自然と関わる機会を作っています。

「湘南自然誌」は、隊の活動報告やみんなが見つけた生き物を記録に残していく隊報です。また、毎号特集として自然に造詣の深い先生方との対談やコラムを掲載し、より深く自然を知っていくための情報誌でもあります。

身近な自然を見つめなおし、地域の自然環境がより良くなっていくように、みんなで隊の活動を盛り上げていきましょう!

平岡いきものはっけん隊・呼びかけ人 平岡幼稚園副園長/堀田 佳之介

【平岡いきものはっけん隊の活動目的】

① 地域の自然をまもるために

私たちのいのちと暮らしは“自然の恵み(生態系サービス)”を受けることにより成り立っており、“地域の生物多様性”はそれを支える基盤です。豊かな自然の恵みを未来の世代まで永続的に受け続けるには、地域の生物多様性を守りつつ、より豊かなものとしていかななくてはなりません。そのためには、私たちが地域の自然を知り、理解していくことが必要です。この隊は、園児・保護者・教職員をはじめ多くの人と一緒に身近な自然に親しみながら、地域の自然を皆の力で守っていくことを目的とします。

② 園児の教育のために

幼稚園教育要領や学校教育法にも、自然環境への関わり必要性が記されているように、子どもの健全な心身の発達・成長には、幼少期に多様な自然と関わり、多様な体験活動をしていくことが必須です。しかし、現代社会において子どもたちの自然体験は質・量ともに低下の一途を辿っています。この隊は、次代を担う子どもたちが、さまざまな自然とのふれあい活動をおして、自然に親しみながら、豊かな心(感性・人間性)と健やかな身体の育成をはかれるようにしていくことを目的とします。

12月5日、森上先生のご自宅にて

ナチュラリストレーター
森上義孝先生に伺う湘南の
原風景

65年前の自然と暮らし

ナチュラリストレーター
もりう え よしたか

森上義孝 先生



平岡幼稚園

堀田佳之介 副園長

〈 Profile 〉

1942年東京生まれ。幼少時に茅ヶ崎町（現茅ヶ崎市）に疎開。多摩美術大学卒業後、在日米軍総合医学研究所で主に蚊などの害虫を描いた。その後フリーに。1970年から小学館の百科事典や学研の教材付録の絵を描き始める。長年雑誌『BE-PAL』の連載を受け持った他、子供向けの図鑑などの仕事もする。朝日広告賞など受賞多数。茅ヶ崎野外自然史博物館初代館長。三翠会設立メンバー。現在も自然観察会や生物調査に精力的に参加している。

対談 森上義孝先生 × 佳之介副園長

堀田佳之介（以下 堀田）> 対談を引き受けてくださってありがとうございます。先日森上先生の昔の茅ヶ崎の風景についての講演*を聞きまして、ぜひうちの幼稚園の父母や園児たちにも湘南地域って元々どんなところだったのか知ってもらいたいなぁと思ひまして。

森上義孝（以下 森上）> そうですか。アンケートなんか見るとあの講演はなかなか好評だったみたいですね。

堀田> ええ、凄く良かったです。今日は先生の子どもの頃のお話や絵画作品についてお聞きしながら、「湘南の原風景」が浮かび上がってくるような対談になるといいなと思います。それではよろしくお願ひします。

森上> よろしくお願ひします。

堀田> 先生はやっぱり小さい頃から頃から絵を描くのがお好きだったんですか？

森上> 僕は子どもの時からね、川で採った魚を描いたり、牛で田んぼを耕してる風景とか、そういうところの絵を描くのが大好きだったんですよ。

堀田> やはりそうだったんですね。そういった風景も

ただ見てるんじゃなくて、細かいところまで観察してるんですか？

森上> そうなんでしょうね、たぶん。そういう訓練を自然にしてみたいなんですよ、今思うとね。その代り、いくら繰り返しても算数だとかそういうのは全然ダメだった（笑）

堀田> そうやって自然と鍛えられてきた記憶力をもとにして、昔の湘南砂丘を描かれていますけど、今はあまり砂丘って感じはしないですよね？

森上> そうですね、この我が家のあるところ（茅ヶ崎市香川、茅ヶ崎のやや北部）も、砂丘だったんですよ。

堀田> こども砂丘だったんですか?! そうするとかなり内陸の方まで砂丘地が広がってたってことになりそうですね。

森上> そうそう。ここは茅ヶ崎で一番北にある砂丘だったんですよ。ちょっと高くなってて松がいっぱい生えてた。ちょっと先の坂のところに行くとその感じが残ってますけどね。

堀田> 確かに来る時見えました。この先に坂がありますね。

森上> そう、あの高さまで繋がってたんですよ、砂丘が。

堀田> そうだったんですか。ということは、茅ヶ崎って砂丘でボコボコしてたんですか？

森上> ボコボコっていうかね、それほど大きな変化のないふっくらした砂丘が市内に広がってた。

堀田> それが今見られないってことは、削っちゃったんですか？

森上> あるにはあるんですよ。でも道路にしたり家が建ったりして砂地が見えないんで、砂丘らしい感じはしなくなっちゃいましたね。今サザン通りって言われてる海岸の方へ向かって行く道があるでしょ？茅ヶ崎小学校の前の道。あの道は昔は砂丘にさえぎられて海岸へ直結してなかったんですよ。だから南から学校に来る生徒はその砂丘を迂回してたんです。今は削って南北に通ってますけどね。あと国道1号線は砂丘の上を走ってるんですよ。そういうの聞くと、茅ヶ崎がいかに砂丘地帯だったかって分かるでしょ？

堀田> 砂丘ってそんなに大きかったんですか。昔の砂丘って植生はどんな感じだったんですか？

森上> 木ではね、松が生えてる他はハリエンジュも生えてましたね。あとやっぱり外来だと思っただけエニシダね。もっと町の方でも砂地が残ってる所では海岸植物がありましたね。テリハノイバラだとか、ハマエンドウだとかね。あんまり奥に行くとも少なくなるけど、それでもポチポチありましたね。今でもハマヒルガオは結構奥にもありますからね。

堀田> 奥にもまだ残ってるんですか？

森上> 探すとありますね。自転車に乗っていると、「あら、こんなところにハマヒルガオが」なんて見つけることがありますよ。

堀田> 平塚の方はどんな感じだったんですか？

森上> 平塚にはあんまり行かなかったけど、今南っ側みると、「ああ、ここも砂丘だったんだなあ」って

森上> キリギリスも草むらになってるようなところにはいましたね。ギィーって鳴いてましたよ。あとガシャガシャって鳴くクツワムシ、あれもいましたね。茅ヶ崎のどこでもいたんじゃないですかね。僕は小学4年生の頃までは本村ってところにいる、それから南湖(海岸のすぐ近く)に引っ越したんですけど、あの頃はそこでもいましたねえ。

堀田> 今はもう北部丘陵の方に行かないとクツワムシはいないですよ？

森上> そうですね。北部のゴルフ場の周りとかいかないとダメなもの。

堀田> 魚類は今と昔でどういう違いがありますか？

森上> 魚だとね、フナ、ドジョウ、メダカ※は普通にいましたね。今みたいに乾田じゃなかったし、冬でも水が溜まってる所が結構ありましたから。水のある所には何かしら魚がいましたね。夏に田んぼに滔々と水が張ってるときは、水面がメダカで覆われてた感じですよ。

堀田> メダカが水面を覆ってる？それはすごいですね！

森上> ホントにそうなんです。それがね、昭和36年から40年、東京オリンピックをやるちょっと前頃からね、田んぼでは殺虫剤をヘリコプターだとかセスナ機でブワーっとな、茅ヶ崎でも撒くようになってね。あれをやりだしたり、あちこちで道路工事とかし始めたらメダカが全然なくなっちゃった。タニシもマルタニシって大きいやつがたくさんいたんだけど、



思うようなところがありますね。松があっってちょっと起伏があたりね。高浜のあたりとか。

堀田> 湘南を代表する地形は砂丘だったってことなんですか？

森上> 僕はそう思ってるんだけど、皆さんピンと来ないみたいでね。湘南の砂丘は日本3大砂丘って言われてたこともあるくらいなんですけどね。僕は一中(茅ヶ崎市立第一中学校、国道134号線そば)だったんですけど、昔はただ砂地の所にポンと校舎が建ってて、もう砂の中で遊んでたんですよ(笑) それくらいずーっと砂丘が広がってた。

堀田> 当時そうやって遊んでたら当たり前のように見られたのに、今は全くいなくなっちゃった生き物とかって何かありますか？

森上> それはね、バッタの仲間ですね。砂丘の中でも草が生えてたりする所には結構いましたよ、クルマバッタの仲間だとかトノサマバッタだとか。

堀田> キリギリスはどうでしたか？

今ではたまーに見つかるくらい。あの頃を境にしてとにかく生き物がなくなっちゃった。田んぼに行ってもイナゴも少ないですね。他にも大きな水生の甲虫類なんかもいたんですけどね。

堀田> ゲンゴロウとかガムシですか？

森上> 当時は名前をはっきり分かってなかったけど、ゲンゴロウ(県内絶滅)はいたんですよ、大きいのが。他にはミズカマキリやタガメ(県内絶滅)もいたんです。

堀田> タガメも？

森上> ふつうーにいたんです。臭いのね、ちょっと(笑) その頃近くのお百姓さんから竹箕(たけみ)を借りてきちゃあ川ですくってたんだけど、タガメなんか見つけると、「うわあー、なんか気持ち悪いーのいた！」なんて友達とはしゃぎ合ってたよ(笑)

堀田> 外来種のザリガニはまだ少なかったんですか？

森上> アメリカザリガニは当時からいる所にはいっぱいでしたね。バケツに詰めて持って帰って茹でると真っ赤っかになってね。そうやって食べたりしてた。他にはタニシもね。

堀田> タニシも食べてたんですか？ザリガニだとかタニシだとか持って帰るとお母さんは喜んだんですか？今じゃ怒られますけど(笑)

森上> そうね、「じゃあ茹でよっか」なんて言って、みんなで食べましたよ。あの頃は食糧難だったんでね。

※ 現在メダカは県内ではほぼ絶滅(県RDB絶滅危惧IA類)

堀田〉シジミとかはどうですか？

森上〉シジミはもうしょっちゅうおみおつけにしましたよ。集落の下の流れにいっぱいいましたからね。マシジミね。黄色っぽい色したやつ。流れの底の砂地をよーく見るとちょこっと口を出してるのが可愛くてね（笑）それからシマドジョウがいましたね。シマドジョウは砂地が大好きなんです。小さな石が混じってるくらいだね。泥のところはダメなんです。

堀田〉今シマドジョウってないんですか？

森上〉いませんね、茅ヶ崎では。何年か前に厚木で久しぶりに見ましたけどね。

堀田〉マシジミも茅ヶ崎ではもう見られない？

森上〉マシジミの仲間はいるんですよ。ただ外来（タイワンシジミ）みたいですね。他に繋がっていない水路ってあるんですけど、そういうところでもよく調べてる人に言わせるとやっぱり外来のようですね。

堀田〉私は自然が豊かだった昔のことは知らないですけど、いろいろ生き物が見られなくなっているっていうのは寂しいことですね。

森上〉僕なんかがこういう話をするとみんな「えー?!」ってビックリしますね。茅ヶ崎はほとんどが他から越してきた人だから。僕もたまたま疎開で茅ヶ崎に来た人間だけど、この辺の自然が壊れていく前だったんで、かろうじて以前の風景を知ってるんですね。僕が青年になる頃どんどん壊れていきましたけど。

堀田〉もしよかったら昔の風景を描いた絵を見せていただきながらお話を伺えますか？読者もイメージしやすいと思うので。

森上〉そうですね。そうしましょう。それではこの絵（画①）、これは今の浜見平のあたりなんです。



堀田〉ここに今は団地が建ってるんですよ。

森上〉そうそう。浜見平にあんなに建物が建つなんて夢にも思わなかった。鶴が台団地のあたりなんかもずーっと田んぼだったんですよ。

堀田〉真ん中の流れが昔の松尾川？

森上〉そう。今は残念なことになってますけどね。

堀田〉ここで昔森上先生がウナギを捕ってたって講演会で聞いたんですけども。



森上〉そうなんです。夜釣りにきてね。夜は蛇が出るんで怖いし、大人と一緒に行ってたけど。

堀田〉ウナギは魚屋でさばいてもらってたんですか？

森上〉糸が絡んだりしてたけどそのままお湯につけてちゃってたよ（笑）身がほぐれたりしてたけどそのまま食べてた。

堀田〉逆に贅沢な食べ方って気がしますね（笑）

森上〉お茶が出ましたんで、召し上がってください。

堀田〉すみません…ではいただきます。あれ？このカップの絵柄はもしかして…



森上〉ええ、僕の絵なんです。HOYA で作られた陶器の絵柄に使われてたんです。

堀田〉おしゃれなカップだなあって思ったらやっぱり先生の絵だったんですね（笑）

森上〉（画②）円蔵・高田のあたりは今家でいっぱいですけど、昔は一面田んぼだったんですよ。バスが走ってるのが今の小出県道。右上の丘陵には修道院があったりしましたね。横に走ってるのが千ノ川の土手。この水路のあたりにブクブク湧水があって、そういうところにはミヤコタナゴ（県内絶滅）がいた。この畦道は砂なんです。カラスガイの仲間なんかもいましたね。



森上〉それからこれ（画③）、これは松尾川が流れてきてその下流がここなんです。



画③「旧小出川と松尾川の合流点」

森上 > そうです。ふかーい入り江になってね。それでね、水量の安定してお天気の良い日には釣竿を持って釣りに行ってたりしたんですよ。

堀田 > 何が釣れたんですか？

森上 > ハゼですね。浮きを付けてやるとセイゴも釣れた。シマイサキも。そういうのがいっぱい釣れた。

堀田 > やっぱり釣れたら持って帰って食べた？

森上 > まあ、食えるものは何でも食べましたよ（笑）あの頃は魚釣るっていったら持って帰って食うってことだったからね。

堀田 > 今ここの、柳島ポンプ場のあたりですか？

森上 > そうそう、昔の小出川は道路沿いを流れてたんですよ。この先に柳島小学校があるんだけど、そこも川だった。ここで合流して相模川の河口に注いでたんですよ。河口に干潟みたいなものがあるでしょ？あれももっと沖の方にあったんです。旧小出川が押し出すようにして湾があった。今は海岸線もずーっと後退してますね。

堀田 > 平塚も昔はもっと海岸が広がったんですかね？

森上 > 平塚はあんまり変わってない気がするんだよね。河口を見ても茅ヶ崎側の方が減っちゃってるでしょ？

堀田 > ああ、確かにそうですね。河口は今みたいにコンクリートで固められた感じではなくてもっと自然な感じだったんですか？



画④「千ノ川上流、松林、室田方面を見る」

森上 > (画④) これは千ノ川。茅ヶ崎市立病院のところの橋があるのがこのへんですよ。

堀田 > それにしても凄い記憶力ですね…

森上 > まずは自分の記憶で描いてみようと思ってね。たまに「この古写真を描いてみてよ」なんて言われることもあるんだけど、写真をもとにしたら僕がやる意味がなくなっちゃうでしょ？



画⑤「昭和30年代、中海岸4丁目9番地～15番地付近」

森上 > (画⑤) これは昭和30年くらいの中海岸。

堀田 > これだけ松があったなかで、ハルゼミの声なんか聴こえてたりしましたか？茅ヶ崎は昔は北部を中心に記録があるんですよ。今は絶滅してしまったようですが。

森上 > それがねえ、ハルゼミなんか知らなかったんでねえ…今、岸さん（はっけん隊顧問）がクマゼミの抜け殻の調査をされてますけど、クマゼミは昔もいたんですよ。でもこの絵のあたりとか海岸・砂地のところにはいなかった。やっぱり卵産んで幼虫が地下に降りるわけでしょ？砂地はダメみたいですね。

堀田 > 幼稚園でもセミを調べてるんですけど、最近の調査では平塚だとクマゼミが一番多いのが海岸の砂防林なんですよ。昔は浜口先生（平塚市博物館元館長、故人）の見解でも砂地はあまり適さないんじゃないか？ってことになってたみたいなんですけど、今は結構出てるんですよ。

森上 > 最近は砂地が土化してるんじゃないかなって気がしてるんですよ。昔僕が一中行ってた頃なんて海岸近辺で虫が掘ったような穴なんてなかったですね。砂防林のところも結構土化してるっていうか泥化してるっていうか、詰まって落ち着いてる感じがするんですよ。

堀田 > たしかにサラサラはしてないですねえ。



画⑥「昭和30年代初期、茅ヶ崎一中への通学路」

堀田 > (画⑥) これはどの辺ですか？

森上> 一中ですね。左手前が俳優の上原謙のおうち。奥に江ノ島が見えますね。

堀田> こんな風景が見られたんですね…このコンクリートの箱みたいなのはなんですか？

森上> トーチカですね。トーチカっていうのは戦争の時に銃なんかをおいて見張りをしたりするところ。米軍の上陸がどうのこうのなんていう話があってね（湘南海岸が米軍の本土上陸作戦の候補地だった）。上陸してきたらそこから鉄砲撃とうと思ってたんじゃないの？

堀田> このピンク色の花がハマヒルガオ？

森上> そうですね。

堀田> これは？（画⑦）



画⑦「鉄砲道、昭和40年代初期迄」

森上> 鉄砲道。この先が六道の辻。

堀田> この松林は草を刈って手入れをしてたんですか？

ててね。あそこは単線だから上下のポイント切り替えをしなきゃいけないんですけど、駅員じゃなくてアメリカの兵隊さんがやりましたね。こっちは何も口出できない感じだね。



画⑨「北茅ヶ崎駅プラットホーム前は水田だった」

森上>（画⑩）あとこれなんかいいんですよ。千ノ川。神奈中の営業所のあるあたり。これがねえ、染め物工場の人が見に来てね、「よくまあこんな風景を絵にしてくださいましたね」って感激されてね。

堀田> 川が汚くなっちゃったらこういう仕事はできませんよね。

森上> そうだね。昭和35、6年から40年にかけてもの凄く汚くなりましたねえ…でも最近は良くなりましたよ。もの凄くきれいになってきた。アユが上がってきてね。今は投網すると捕れるんですよ。

森上> 草があんまり生えないんですよ。松で日陰になって、さらに砂地だとあんまり生えないんですよ。



画⑧「昭和20年代～40年代初期、南湖3丁目」

森上>（画⑧）これはねえ、僕が南湖に住んでた頃の家近くの。山田耕筰※が住んでた家の入り口だったところですよ。

堀田> 道を這いまわってるのはアカテガニ？

森上> そう、アカテガニがいてねえ。絵にあるようにハグロトンボもいっぱい飛んでいたんですよ。この辺に大きなケヤキがあってね。この絵を描いた後にね、プラプラ見に行ったらこのケヤキの切り株が残ってましたね。ビックリしちゃった。

堀田>（画⑨）これは北茅ヶ崎ですね。蒸気機関車が走ってたんですよ。

森上> 終戦直後でアメリカの兵隊さんがいっぱい乗っ



画⑩「千ノ川、染め物を水洗していた」

堀田> 昔、汚くなる前もアユは捕れたんですか？

森上> 子どもの頃はどれがアユだかよく分かってなかったから何とも言えないんですけど、アカツバラって言ってウグイが婚姻色でお腹が赤くなってるやつはよく覚えてますね。それからオイカワね。オイカワのことはビワッコって言ってたんですよ。

堀田> ビワッコ？

森上> 琵琶湖からこっちに持ってきたらしいんですよ。だからビワッコ（笑）

堀田> あれは食べたら美味しいんですか？

森上> いやあ、美味くないね。苦くてね。ウグイの方はまあまあ食えるんじゃないですか。



画⑪「北茅ヶ崎→旧円蔵寺→大東→松林
昭和20年代～30年代前期」

森上> (画⑪) 僕はね、これがホントが一番好きなの。松林中学のあたり。畑は砂地だから農作物の生産はなかなかうまくいかないんだと思うんだけど、一生懸命やりましたね、農家の人たちが。



画⑫「六本松刑場北側には砂丘からしみ出た澄んだ水が流れていた」

にちゃんとしたお寺が建ってますけどね。その円蔵寺がもともとあったところなんですよ。それで境内にできかい木が3本そびえてたんですよ。今はもうみんな切られちゃってね。



画⑭「本村、旧円蔵寺(昭和30年代まで)」

堀田> この辺りを駆け回って遊んでたんですね。

森上> そうそう、しょっちゅうね(笑) 魚以外にも鳥も採ったりしてましたね。庭にモチノキがあってね。この皮を剥いで水に浸けながら石の上で叩くとヌメヌメしたガムみたいなやつが出てくるんですよ。それを濡れた手で取るんですね。濡らしてないとベタベタ手にくっついちゃうから。それを細い竹の先に伸ばして塗ってね。生垣の下とかに置いておくんですよ。そうするとウグイスとかメジロが来てくっついちゃう(笑)※あの頃はなんにも法律で禁止とかされてなかったからね。

森上> あとこれ。(画⑫) これは砂丘の砂が落ちてくるのを防ぐためだと思うんですけど、水路の砂丘側を赤土で固めてましたね。

堀田> 昔は茅ヶ崎でこんな風景が見れたんですね…

森上> (画⑬) これはこっち(香川)に引っ越してきてからちょくちょく散歩がてら行ってたときのスケッチなんですけど、行谷です。このあたりは昔からあんまり変わってないところですね。



画⑬「里の秋、アキアカネ」

堀田> 茅ヶ崎野外自然史博物館で保全してる湿地のあたりですね。あそこは今も数十年前の風景の名残を感じることができる場所なんです。

森上> (画⑭) 最後に僕が茅ヶ崎に疎開してきて最初に住んでたところの絵を紹介しましょうか。円蔵寺って古いお寺がありましてね。関東大震災でやられてそのあと仮に建てたものじゃないかな。今は警察署の隣

堀田> そんな日常が私なんかからするとوراやましいですね。大変なことも多かったと思いますけど。そういえば平岡幼稚園では園児たちに先生の子どもの頃のように少しでも多く自然に触れてもらおうと、出会った生き物を絵に描いてもらったりしてるんです。園児でもこのくらいの絵を描く子がいるんですよ。(湘南自然誌過去号を見せながら)

森上> これ幼稚園の子が描いてるんですか？

堀田> ええ。せっかくなので子どもたちへ絵を描く際のアドバイスをいただけますか？

森上> やっぱりむやみに怖がらないで虫と仲良くすることが一番ですね。それにはね、一番の教育者であるお母さんがキャーキャー言ってちゃダメですね(笑) それから、死んだ虫でもいいからそばに置いて描くといいかもね。わざわざ殺すことはないけどね。

堀田> 実際見て描くと、見慣れた昆虫でもまた違った発見があって勉強になるでしょうね。

森上> 昆虫の脚は全部胸から出てるとか、そういう体のつくりが自然と分かってくるからね。大人でも描かせると脚が変なところから出てたりしますよ(笑)

堀田> 先生が描かれた絵本なんかがあったら紹介していただけますか？できたら幼稚園で購入して図書室に園児たちが見れるように置いておきたいなあと思って

※ 昔はモチノキ等から出る粘着性の物質「鳥もち」を使って鳥を捕っていた。

森上> そうね、それなら僕が持っているやつを何冊かお渡ししますよ。ちょっと待っててくださいね。フェアブル昆虫記を絵本にしたやつがあるんですよ。～森上先生本を取りに行く～これ、どうぞ差し上げます。



堀田> いいんですか？ありがとうございます！この本はどういう本なんですか？

森上> フェアブルの絵本を12巻くらい出すから何冊か引き受けてもらえないか？って言われましてね。それで3冊引き受けたんですよ。やるならなるべくきれいな虫をやりたかったけど、そうも言ってもらえなくてね。それでアワフキムシ、この地味なやつをやったんですよ（笑）オトシブミはやってみたら面白かったですよ。

森上> どれっていてもねえ…自分でもパッととは分かんないなあ（笑）むかーし描いたやつだからね。この辺がそうかもしれないなあ…いろんな絵を寄せ集めてるからどれがどれだか自分でもさっぱり分からない（笑）

堀田> 今取り組まれてるテーマはあるんですか？

森上> ちょっとね…自分でこれかなっていうのがあるんですよ。これなんですけどね。鳥の羽毛の図鑑絵。これ今描きためてるんです。もう5年くらい経ってるんですけどね、描き始めてから。



堀田> 凄い！リアルですね…

森上> 鳥の羽の図鑑も参考にはしてるんですけど、実物を見て描いています。やっぱり写真だとね、どうしても影が入るんですね。それから羽の色が背景の紙に溶

堀田> （本を眺めながら）これはいいですねえ…図書室に置かせていただきます。

森上> あとこれ、全部じゃないんですけど、僕も一部描いてる本です。



堀田> ああ！これ、幼稚園でも使ってますよ。年によって使う出版社は違うんですけど、うちの園児はこれを肩にかけて外を走り回ってるんですよ。先生はどの絵を描かれてるんですか？



堀田> 52点もですか！最終的には何種類くらい描く予定なんですか？

森上> 僕は水鳥なしで出しちゃっていいんじゃないかなって思ってたんですけど、ある編集者が「ここまで描いてるんだったら全部網羅した方がいいよ」っていうんですよ。でもそれだと何年かかるか分かんないね（笑）

堀田> 観察会やなんかで鳥の羽をよく拾うんですけど、こういう絵が載ってる図鑑があるといいなあって思うんです。ぜひ本にしてください！

森上> そうね。なんとかもっと多くの種類を描いて出したいですね。

堀田> 今日は長い時間ありがとうございました。いいお話を聞かせてもらえたうえに、絵もたくさん見せていただいて。

森上> いえいえ、こちらこそ。冬の記録号楽しみにしています。

対談 森上義孝先生
× 佳之介副園長 終



はっけん隊 活動報告

2016.12月～2017.2月

鈴川探鳥会

2017年2月19日(日)9:30～11:30に、平岡幼稚園～鈴川周辺を散策しながら、様々な鳥類を観察しました。各家庭に一人、望遠鏡を持った“こまたん”のメンバーの方が付いてくださったので、皆すぐにその鳥を見ることができました。

本会の注目種であったタゲリも全員が見ることができ「かわいい～♡」「キレイだね!」と皆さん興味津々で望遠鏡を覗き込んでいました。他にも、カワラヒワの群れや、ツグミ、鈴川ではオオバン、バン、コガモ、マガモ、カイツブリ、イソシギ、コサギなどの水鳥も見ることができました。この日、見聞きした鳥類は31種です(リストはP13)。平岡幼稚園の周りにはたくさんの鳥類がやってくるのですね。

ご協力いただいた“こまたん”の皆様、本当にありがとうございました。



ひらおか山で集合写真



ツグミ

撮影：金子典芳氏



望遠鏡から見るタゲリ



オオバン



タヒバリ

撮影：金子典芳氏



富士を背に鈴川周辺を散策



カワラヒワの群れ

撮影：金子典芳氏



タゲリ 飛翔中

撮影：金子典芳氏



2017年2月12日(日)9:30~12:30に、神奈川県立茅ヶ崎里山公園にて茅ヶ崎野外自然史博物館主催の自然観察会に参加しました。ポカポカ陽気だったので、ナナホシテントウが各所で活動していました。昆虫類では、他に成虫越冬種であるクビキリギス(キリギリスの仲間)、越冬中のナミテントウやヒゲナガサシガメ幼虫なども見つかりました。鳥類は、芹沢池にコガモが来ていたほか、枝に止まっているノスリ(タカの仲間)も見ることができ、観察会全体では昆虫類19種、鳥類19種が確認されました。草本類は、ロゼット(地面にペタッと葉を広げている状態)になっている様子が観察できましたが、セイヨウタンポポ・ハルジオン・オオイヌノフグリなど既に開花しているものも見られ、早くも春の訪れを感じられた1日でした。茅ヶ崎野外自然史博物館の皆様、ありがとうございました。

『あいだ先生のチョウ教室』

第3回 ~チョウとガの違い~

※本コラムのチョウやガの写真で撮影者名の記載のないものは、すべて會田先生が撮影されたものです。

平岡いきものはっけん隊世話人
あいだ しげみち

會田 重道 先生

1942年東京生まれ。大磯町在住。幼少の頃よりチョウに興味を持ち、大学では農業昆虫学を専攻。退職後は大磯丘陵のチョウの調査と写真撮影を行う。日本鱗翅学会、日本チョウ類保全協会、相模の蝶を語る会各会員。著書に写真集「大磯の蝶」がある。



チョウの触角は先端が太い



連載コラム



ミズイロオナガシジミ

チョウや蛾(ガ)の仲間は、翅や体が鱗粉に覆われており、鱗翅目(りんしもく)またはチョウ目という分類で呼ばれています。では、よく似ているチョウとガは、どんなところで区別できるのでしょうか。

チョウは昼間に飛び、ガは夜に飛ぶということも言われますが、ガは種類によっては昼間も飛びます。飛び方もチョウとガでは少し異なります。しかし、見分けるのは慣れないと難しいです。アゲハモドキというガがありますが、このガはチョウ(アゲハの仲間のジャコウアゲハ)に非常によく似ています。

チョウとガの違いをはっきり知ることができるのは、それぞれの触角を見るのが一番手っ取り早いと思われまます。チョウの触角は、棒状で先端が太くなっています。ところが、ガの触角は先端が細くなっていたり、鳥の羽※のようになっています。私たちの住まいの身近にいるチョウやガであれば、まずこの違いで区別できると思います。

日本では、触角の先がチョウのように先端が太くなっているガが一種類だけいます。ベニモンマダラという紅色の小さなガで、北海道と本州(浅間高原あたり)に生息しているとのこと。

それから、セセリチョウの仲間は、触角の先端が太っていますが、さらにその先が細くなっています。他のチョウの触角とはちょっと異なった形状です。セセリチョウの仲間はずっとガに近いものと言われています。(第4回へつづく)

姿だけでは見分けが難しいチョウとガ



アゲハモドキ(ガ)



ジャコウアゲハ(チョウ)

でもよく見ると、ガの仲間は触覚が羽みたいになってるが、先が細くなってるよ

鳥の羽型



カノコガ

先細り型

撮影:富岡



オオミズアオ

※: 櫛歯状とも表現されます。

隊員のみんなが集めた 生き物はっけん記録

みんなで湘南地域を中心とした生き物の記録を残し、豊かな自然環境の保全に役立てていきましょう。

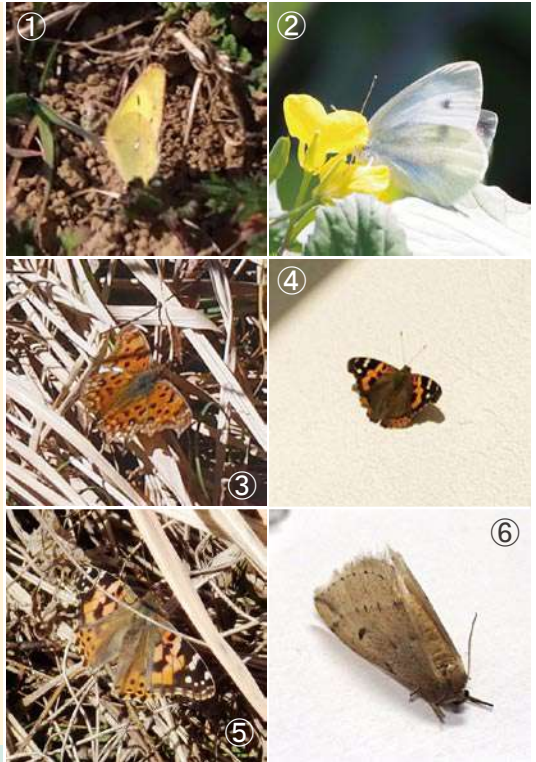


1月 鈴川にて
カワウ

註1) 本欄の記録は正式な発表ではありません。後日発行予定の『別冊・湘南自然誌』に本年度の記録をまとめて掲載し、そちらを正式な発表とします。なお、重要性の高い記録については各専門誌に投稿します。
 註2) 2016年12月以前の記録でも、この期間に報告を受けたものや、(未同定だったもので)種が判明したもの(※印)については今号に掲載しています。
 註3) ここに掲載されている記録は、難しいものはっけん隊名誉顧問の岸一弘先生に同定して頂いております。

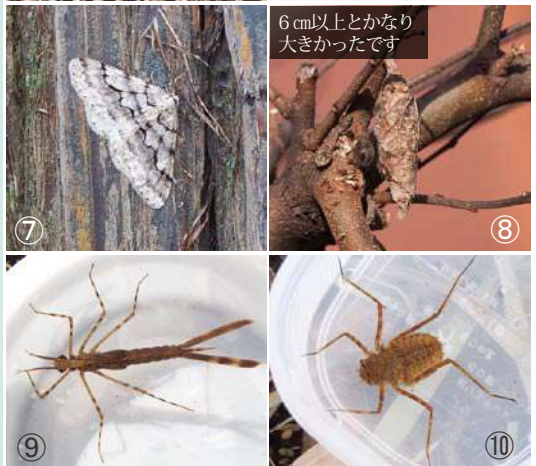
◇チョウ目

- モンキチョウ**：平塚市土屋1月 堀田来佳・心結・佳之介 (写①)
- モンシロチョウ**：茅ヶ崎市芹沢2月 堀田来佳 (写②)
 - モンシロチョウ・モンキチョウは成虫越冬する種ではないのですが、近年は厳寒期にも成虫が記録されるようになってきました。(岸)
- キタキチョウ**：茅ヶ崎市芹沢2月 堀田来佳
- キタテハ**：平岡幼稚園2月 きく組 (写③)
- アカタテハ**：大磯町東町2月 吉田結陽・ゆかり (写④)
 - キタキチョウとキタテハは成虫越冬。アカタテハは幼虫でも越冬。(堀田)
- ヒメアカタテハ**：平岡幼稚園2月 富岡誠一 (写⑤)
 - 本来幼虫越冬ですが、近年の暖冬傾向により、前年末に羽化して年を越したり、冬に羽化してしまう個体も出てきました。(岸)
- ウスバフユシャク**：平岡幼稚園1月・2月 堀田佳之介 (写⑥)
- ウスモンフユシャク**：茅ヶ崎市芹沢2月 岸一弘
- ヒロバフユエダシャク**：茅ヶ崎市芹沢2月 岸一弘・堀田佳之介 (写⑦)
- クロテンフユシャク**：茅ヶ崎市芹沢2月 岸一弘
 - 上記4種は通称“フユシャク”と呼ばれ、冬季に成虫期を迎える蛾類です。(堀田)
- クスサン** (空繭)：茅ヶ崎市芹沢2月 西澤陽 (写→P10)
- マダラマルハヒロズコガ** (幼虫)：茅ヶ崎市芹沢2月 富岡誠一
- オオミノガ** (幼虫の巣)：平岡幼稚園2月 堀田佳之介 (写⑧)
- ミノガの一種** (幼虫の巣)：伊勢原市笠窪1月 西部浩美・颯太・光咲



◇トンボ目

- オオシオカラトンボ** (幼虫)：平岡幼稚園2月 たんぼぼ組・ちゅうりっぶ組
- ミヤマカワトンボ** (幼虫)：伊勢原市1月 武末範子・太田祥作 (写⑨)
- カワトンボ伊豆個体群** (幼虫)：伊勢原市1月 堀田佳之介・太田祥作・大津誠・武末範子
(雑種起源)
- コヤマトンボ** (幼虫)：伊勢原市1月 堀田来佳 (写⑩)
- オニヤンマ** (幼虫)：伊勢原市1月 大津誠 (写⑪)
 - 平岡幼稚園2月 きく組・たんぼぼ組・もも組・ちゅうりっぶ組・いちご組・れんげ組
- コシボリヤンマ** (幼虫)：伊勢原市1月 大津誠 (写⑫)
- ダビドサナエ** (幼虫)：伊勢原市1月 堀田 (佳)・太田祥作・大津誠・武末範子
- クロサナエ** (幼虫)：伊勢原市1月 堀田 (佳)・太田祥作・大津誠・武末範子
- オナガサナエ** (幼虫)：伊勢原市1月 太田祥作 (写⑬)
- コオニヤンマ** (幼虫)：伊勢原市1月 堀田佳之介 (写⑭)



◇直翅目

- ケラ**：平岡幼稚園1月 堀田佳之介 (写⑮)
 - 近年、乾田化や湿地の消失等によって、生息地が減っています。(堀田)
- クビキリギス**：平岡幼稚園1月 堀田佳之介 (写⑯)
 - 茅ヶ崎市芹沢2月 橋本蓮生愛
 - 成虫で越冬するキリギリスの仲間です。(堀田)



◇カマキリ目

- オオカマキリ (卵鞘)：平岡幼稚園 1月 堀田來佳
茅ヶ崎市芹沢 2月 西澤陽 (写18)
- コカマキリ (卵鞘)：平岡幼稚園 2月 堀田佳之介 (写19)
- ヒナカマキリ (卵鞘)：真鶴町真鶴 2月 堀田佳之介 (写20)

◇カメムシ目

- 雪虫 (通称)：平塚市土屋 12月 小山瑞穂
平岡幼稚園 12月 堀田佳之介
伊勢原市笠窪 12月 西部浩美・颯太・光咲 (写21)
→アブラムシの仲間。初冬に白い綿状の毛を付けてフワフワ飛びます。(堀田)
- クヌギカメムシの一種 (卵塊)：平塚市土屋 1月 堀田來佳・心結・佳之介
- ミナミトゲヘリカメムシ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介
- ヒゲナガサシガメ (幼虫)：茅ヶ崎市芹沢 2月 小林里緒 (写22)
- ヨコヅナサシガメ (幼虫)：茅ヶ崎市芹沢 2月 平川清・圭 (写23)
平岡幼稚園 2月 きく組
- ヤニサシガメ (幼虫)：真鶴町真鶴 2月 堀田佳之介
- マルカメムシ：茅ヶ崎市芹沢 2月 富岡誠一

◇甲虫目

- カブトムシ (幼虫)：平岡幼稚園 (落ち葉の下) 1月 堀田 (佳)・富岡誠一 (写24)
- アカアシノミゾウムシ：平岡幼稚園 (樹皮裏) 1月 堀田 (佳)・富岡誠一
- ヒレルクチブトゾウムシ：平岡幼稚園 (樹皮裏) 1月 富岡誠一・堀田 (佳)
- ヨツボシテントウ：平岡幼稚園 (樹皮裏) 1月 堀田佳之介 (写25)
- ナナホシテントウ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介
平塚市北金目 2月 山田剛輝 (写26)
茅ヶ崎市芹沢 2月 茅ヶ崎里山公園観察会参加者
- ナミテントウ (死体)：茅ヶ崎市芹沢 2月 山田衛 (写27)
- カツオブシムシ (幼虫)：茅ヶ崎市芹沢 2月 西澤陽
- コガムシ：平岡幼稚園 2月 富岡誠一・堀田佳之介
- ヒメガムシ：平岡幼稚園 2月 富岡誠一・堀田佳之介
- アカガネサルハムシ：秦野市鶴巻 ※6月 西部浩美・颯太・光咲 (写28)
- ヤマトタマムシ (上翅の一部)：平岡幼稚園 2月 きく組

◇鳥類

●タカ目

- トビ：平岡幼稚園 1月・2月 堀田佳之介

●スズメ目

- スズメ：寒川町宮山 1月 堀田佳之介
平岡幼稚園 2月 堀田佳之介
- メジロ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介 (写29)
伊勢原市大住台 1月 西部浩美・颯太・光咲
- シジュウカラ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介 (写30)
伊勢原市大住台 2月 西部浩美・颯太・光咲
- カワラヒワ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介
- ハクセキレイ：寒川町宮山 1月 堀田來佳 (写31)
- キセキレイ：伊勢原市 1月 武末範子 (写32)
- ツグミ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介
- アカハラ：平岡幼稚園 1月・2月 堀田佳之介 (写33)
- ジョウビタキ：茅ヶ崎市芹沢 2月 平川清・圭
平岡幼稚園 2月 堀田佳之介
- モズ：平岡幼稚園 2月 堀田佳之介・富岡誠一 (写34)
- ヒヨドリ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介 (写35)
- ムクドリ：平塚市岡崎 1月 堀田來佳・ゆら・心結・佳代・佳之介 (写36)
平岡幼稚園 2月 富岡誠一
- ハシボソガラス：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介 (写37)
- ハシブトガラス：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介 (写38)



◇ハト目

キジバト：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介

ドバト：平塚市岡崎 1月 堀田來佳・ゆら・心結・佳代・佳之介

◇カモ目

マガモ：秦野市鶴巻 2月 堀田來佳・ゆら・心結・佳之介 (写39)

コガモ：秦野市鶴巻 2月 堀田來佳・ゆら・心結・佳之介 (写40)

カルガモ：秦野市鶴巻 2月 堀田來佳・ゆら・心結・佳之介 (写41)

◇ブッポウソウ目

カフセミ：平塚市岡崎 12月 西部浩美・颯太・光咲
平塚市真田 1月・2月 堀田佳之介 (写42)

秦野市鶴巻 2月 堀田來佳・ゆら・心結・佳之介

◇キツツキ目

コゲラ：平岡幼稚園 1月 堀田佳之介 (写43)

◇カツオドリ目

カワウ：平塚市岡崎 1月 堀田佳之介 (写→P11)

◇ペリカン目

コサギ：平塚市岡崎 1月 堀田佳之介 (写44)

アオサギ：秦野市鶴巻 2月 堀田來佳・ゆら・心結・佳之介 (写45)

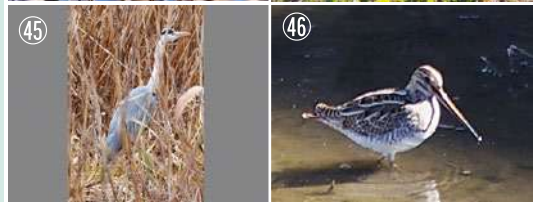
◇ツル目

オオバン：秦野市鶴巻 2月 堀田來佳・ゆら・心結・佳之介

◇チドリ目

タシギ：平塚市真田 2月 堀田佳之介 (写46)

ユリカモメ：小田原市城内 12月 堀田來佳・ゆら・心結・佳代
秦野市鶴巻 2月 堀田來佳・ゆら・心結・佳之介



【植物】

ヒマラヤスギ (実)：平塚市土屋 1月 堀田來佳・心結・佳之介 (写47)
→名前には「スギ」と付きますがマツ科の植物です。実が開くとバラの花びら
みたいな形をしていて面白いです。工作や飾りに使えそうですね。(堀田)

カラスウリ (種)：平塚市土屋 1月 堀田來佳・心結・佳之介 (写48)
→カマキリの顔の形をしていることで有名ですが、「イトトンボの顔にも見
えるよ」と言われて納得、確かに似ているかも。乾かしたら、銀色に輝く
宝石みたいになりました。(堀田)

ガガイモ (実と種)：茅ヶ崎市芹沢 2月 浜野彩乃・橋本愛子 (写→P10)
→大きな綿毛が付いた種がたくさん収納されていて、みんなで飛ばしっこを
したら、大盛り上がりでした！(堀田)

セイヨウタンポポ (花)：茅ヶ崎市芹沢 2月 野村朔 (写49)

☆☆☆めずらしい生き物☆☆☆

ホンドニセハイロハナカミキリ：秦野市 ※5月 武末範子 (写50)
→県内では記録の少ない種で、マツ類にしか付かないようです。5月に発見
したのですが、岸先生に同定してもらったので本号に掲載します (堀田)。

ヒメサナエ (幼虫)：伊勢原市 1月 太田祥作 (写51)
→vol.2に引き続き本種が記録されました。神奈川県内では稀な種で、その
分布状況はよくわかっておりません。2017年は当地における本種の生息
状況をまとめてみたいと思います (堀田)。

ハヤブサ：平塚市北部 1月・2月 堀田佳之介 (写→裏表紙)
→神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006 (以下、県 RDB2006) では、
絶滅危惧Ⅰ類に位置付けられています。(堀田)

タゲリ：平塚市北部 1月 堀田佳代 (写52)
→シベリア・モンゴル方面から冬にやってくる冬鳥です。越冬環境の悪化に
より神奈川県内では渡来地が減っており、県 RDB2006 では絶滅危惧Ⅱ類
に位置付けられています (堀田)。

【鈴川探鳥会】(平岡幼稚園～鈴川周辺) 2月 19日
マガモ・カルガモ・コガモ・カイツブリ
キジバト・カワラバト(ドバト)・カワウ・コサギ
バン・オオバン・タゲリ・イソシギ・トビ
チョウゲンボウ・ハヤブサ・モズ・カワラヒワ
ハシボソガラス・ハシブトガラス・スズメ
シジュウカラ・ヒバリ・ヒヨドリ・アカハラ
ツグミ・ジョウビタキ・ハクセキレイ・タヒバリ
ホオジロ・アオジ (以上、全 31 種)

- 文献紹介 -

専門誌に採用された記録を紹介します。

神奈川県立生命の星・地球博物館発行の「神奈川県自然誌資料第 38 号」(2017 年 2
月発行) に、平岡幼稚園・馬入水辺の楽校の会・ひらつか環境ファンクラブ・里山を
よみがえらせる会ほか取り組んでいる「トンボの棲む街づくり」の調査結果が掲載
されました。同館 HP にてダウンロードフリーとなっていますので、ぜひご覧下さい。



「平塚市におけるトンボ目の生息状況(2015-2016)」
Inhabitation Research of Odonata in Hiratsuka-City from
2015 to 2016

「さがしてみよう！
春に見つけたいむし」

時節のコラム

①ツマキチョウ (3~4月ごろ)



先が尖る→
撮影：2010年4月平岡幼稚園
年に一回春先しか見られません。大きさはモンシロチョウより小さいくらいのチョウで、平岡幼稚園でもたまに見かけます。

③ハルゼミ (4~5月ごろ)



羽化直後のオス
大きさはツクツクボウシと
同じかやや小さい程度
撮影：2016年4月真鶴町
春にマツ林で発生するセミで、天気の良い日に「ムゼー、ムゼー」と鳴きます。県内で激減しており、2015年よりはっけん隊で県内の生息状況を調査中。ぜひ一緒に探しに行きましょう。

⑥ダビドサナエ (4月~6月ごろ)



体長は5センチ程度
全体的に黄色い
撮影：2016年4月伊勢原市
羽化直後のオス
河川で発生するトンボで、平岡幼稚園等の調査で金目川水系では広範囲に生息していることが分かったのですが、平塚市内では成虫の記録は、これまでほとんど得られていません。ぜひ成虫を探してみてください。

生き物は種によって発生する時期が異なります。長生きするもの、年に何回か発生を繰り返すものは、長期間みられるのですが、年に一度しか発生しないものは、その時期だけしか見ることができません。
このコラムでは、春にしか見ることができない昆虫の中から代表的なものを少し紹介します。ぜひ探してみてください！見つけたらぜひ写真に撮って送ってくださいね。(堀田)

②トラフコメツキ (4月ごろ)



採集：2016年4月県立大磯城山公園
左右に楕円状の3つの模様
湘南地域では、はっけん隊隊員が大磯城山公園で見つけた1例しかありませんが、大磯丘陵(平塚市の西側の丘陵地帯)を中心に他の場所でも見つかる可能性もあるので是非探してください。

④ニホンカワトンボ (4月~6月ごろ)



撮影：2015年5月平塚市土屋
体長5~6センチ程度
翅がオレンジ色になる個体も
河川の上流部に行くと見られますが、護岸整備等で幼虫が生息できる場所が少なくなっています。

⑤シオヤトンボ (4~6月ごろ)



先端が少しだけ
黒い(成熟オス)
胸まわりが黄色い
(成熟オス)
撮影：2015年5月平塚市土屋
湿地で発生し、ややシオカラトンボに似ています。乾田化が進むなどの影響で、市内で本種が見られるのは、土屋地区だけかもしれません。

Vol.5
●次号「春の記録号」予告

次号の特集は、ビオトープ管理士の岸しげみさんと小此木宣夫さんをお迎えして、平岡幼稚園のビオトープのこれまでの歩みを振り返ります。H21年4月に平岡で初めてビオトープを作ったとき、ご指導をいただいた先生方です。お楽しみに！

はっけん隊からの
お知らせ



岸しげみさん
平岡の森ビオトープ作りの指導をする小此木さん

●湘南自然誌のバックナンバー

平岡幼稚園のホームページ「平岡いきものはっけん隊・湘南自然誌」で本誌バックナンバー(PDF)がダウンロードできます。ぜひご利用ください。
【HP】<http://hiraoka-kg.com/>



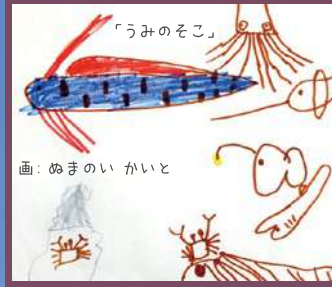
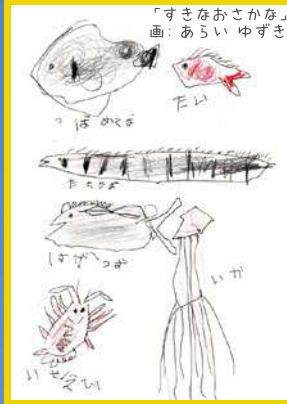
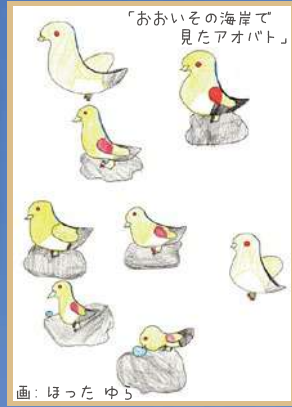
生き物の写真募集！

平岡いきものはっけん隊では、身近な生き物の写真と記録を募集しています。ありふれた昆虫・道端の植物、なんでもOK。種名が分からなくても構いません。また、はっけん隊員でない方からの投稿も大歓迎です。発見場所・日時と写真を添えて以下のメールアドレスまでお送り下さい。ikimono@hiraoka-kg.com
※平岡いきものはっけん隊掲示板はリニューアル中です。

おえかきひろば

ひらおか幼稚園
絵画投稿コーナー

(表紙絵は本部役員6名、謝恩会役員9名、
教職員19名で投票を行って選考しました。)



平岡幼稚園の紹介

平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園は、湧き水の染み出る台地の斜面や表土が残るなど、元々の自然環境が残されています。2009年より園地をビオトープ*にして、周囲に住む多様な生き物を呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全する活動を行っています。昭和42年開園、学園地総面積7,501㎡。*ビオトープ…野生生物の生息環境

- 【受賞歴】2012年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「学校園庭ビオトープ奨励賞」受賞
2014年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2013「日本生態系協会賞」受賞
平岡幼稚園ビオトープが「関東・水と緑のネットワーク拠点100選」に選定される
2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
2016年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2015「日本生態系協会賞」受賞

【主な研究・発表実績】

- 2015年
平塚市内のセミのぬけから調査(2014年)、自然と文化、(38):p.33-46.平塚市博物館。
2016年
平塚市とその周辺地域のセミのぬけから調査(2015年)、自然と文化、(39):p.41-59.平塚市博物館。
神奈川県西部(主として平塚市)のハルゼミ調査、自然と文化、(39):p.29-40.平塚市博物館。
神奈川県平塚市でミンミンゼミ赤色型を採集。Cicada,22(2):p.40.日本セミの会。
平岡幼稚園(平塚市岡崎)でヒラタクワガタを目撃。神奈川県報、(190):p.26-27.神奈川県昆虫談話会。
2017年
平塚市におけるトンボ目の生息状況(2015-2016)、神奈川県自然誌資料、(38):p.59-66.生命の星・地球科学館(共著)

編集後記

対談を引き受けて下さった森上先生には、ご自宅にお招きいただいたうえに、作品までたくさん見せていただきました。ありがとうございました。また、連載コラム執筆の會田先生と、紙面の監修をして下さっている岸先生にも感謝申し上げます。

『湘南自然誌』Vol.4は鳥尽くしといった号になりました。昆虫を探すのが難しい冬ということで、鳥類にも気を配ってみたところ、あっという間に記録が集まり…またしても発刊が遅れそうでしたが、何とか卒園家庭にも配れそうです。

今号発刊後すぐに「はっけん隊反省会」を開きます。父母の皆さんからも今後の活動や本誌についての意見を聞き、新たなアイデアを紙面に反映させていきたいと思っています。(富岡)